

法学部新入生歓迎キャンプ "I can"

法学部

法学部新入生歓迎キャンプは、四月二十四日(土)二十五日(日)「一泊二日」、一部生「I can」(於 広島市三滝少年自然の家)、二部生「You can」(於 広島市青少年野外活動センター)という名の...

学生の自主開催に成果、教官には根強いオリキャン否定論も

学生委員会委員 林 忠行

「ノー・モア・オリキャン」これは、わが法学部教授会で、大方の合意がある数少ない問題のひとつだった。なにかと忙しい学期はじめの貴重な休日を宮島ですこすのはつらい。しかも、私見によればオリキャンとは、教官にとつてひたすら待つことであつた。奇妙な格好をさせられてフェリーを待ち、全員が整列するのを待ち、食事ができるのを待った。しかも待った成果は、必ずしも芳しいものではなく、ため息とともに食事を呑み込んだものである。そして、K・K・Kか新興宗教の式典のごときものをながめた後、煙にむせびながら、寡黙な新入生との対話にあいつとめることになる。同じ新入生との対話なら、ほかの方法があるではないか、そんな想いを多くの教官は抱いていた。

官のオリキャンへの否定的な姿勢を意識して、かなり周到にプログラムを準備し、ディベートなどこれまでなかった企画を用意した。夜のキャンプも、「新興宗教」的な要素は残したが、それに旧制高校のストーム(筆者も体験したわけではないが)と当世のディスコをあわせたようなものとなり、いずれにせよ「手作り」のよさはあつた。市内の食事付き施設を使い、しかも所帯が小さくなったため、移動のための待ち時間は少なくなった。学生の自主開催ではあつたが、学生委員と数人の先生が、「監視要員」として派遣され、ゲームやディベートに参加した。その感想は少なくとも「宮島キャンプ」時代よりは好意的なものだったように思える。今後の対応についてはまだ白紙である。なお、教官の間にはオリキャン否定論は根強くある。その点を次期学生スタッフは心して教官との交渉に臨まなければならないだろう。「世の中、そんなに甘いもんじゃありません」と教えるのも教育の一部なのだから、などと学生委員も考えているしである。



「オリキャン」からの脱却、目指した「革命」、驚異の九割参加

法学部二年 鈴木 泰 広

「オリキャンに代わるもの企てたし。志有る者！」この張紙の下、十七人が集まった。時に十二月二日。我等が「I can」の始まりである。

私の心の中にあつたのは「オリキャン革命」であつた。従来のオリキャンとは違う「法学部独自のものが創りたかつたのだ。「テントか宿舎か」の議論はその象徴的なものである。食事作り・テント設置にさく時間をなくし、他の企画に時間をかけるため宿舎に決定。今まであまりやつたことがなく、

法学部らしく、能動的な取り組みをという観点から「Debate」を取り入れた。その他レクリエーションやキャンプファイヤーも計画し、試行錯誤を重ねていった。「I can」と名付けたのは、自らの可能性を追求したい、新入生にしてほしいという願いからであり、やはりオリキャンからの脱却の表れである。新入生の参加者数は我々の予想を「裏切る」ものであつた。ほぼ全体の九割。信じられない数である。その中から「来年は僕等が」といった声がかかるのは喜ばしい限りである。今回は学部行事ではなかった。法学部の教官方の頭の柔軟性欠落の表れか、我々の取り組みへの理解及び賛同はあまり得られなかつた。しかし参加して下さつた先生方の評価は高いものがあり、また新入生の参加者数の多さは学部側も無視できない。今後の動きに注目したい。ただ、学部行事になつたとしても内容的制約をうけるのはまづびらである。こちらとしても今年の内容を末永くという考えはなく、その都度内容を吟味して行つてくれることを後輩に期待する。当然「テントか宿舎か」の議論からである。いずれにしても今年「I can」を行つた意義は大きいはずである。今後のことはともかく、とりあえず、「I can 万歳！」

新入生オリエンテーション・キャンプ二十年の歩み

昭和四十八年度から、新入生を迎えるにあたり、広島大学では、教官・学生共に協力し、新入生オリエンテーション行事を全学的な形で運営することになった。

各学部のガイダンスをはじめとして、各種サークル主催のオリエンテーション、フェスティバルや各種講演会が開催されることになった。

広島大学体育会においても、新入生オリエンテーション行事の一環として四月二十八日と二十九日の両日、大久野島国民休暇村で、新入生六百八名、在校生二百五十六名、教職員七十四名の参加を得て、新入生歓迎キャンプが実施された。

大久野島では、昭和四年から終戦まで、イペリットガス、ルイサントガス、くしゃみガス、催涙ガス、青酸ガス、

ホスゲンなどの毒ガスのほか、煙幕用の発煙筒や信号筒、風船爆弾などが造られており、いまだに島のあちこちに防空壕跡をみることが出来る。

広島大学体育会では、この年十年目を迎え、「覇気ある学風」をめざし、さまざまな活動を行ってきたが、今一度「スポーツマンである前に学生であれ、学生である前に人間であれ！」という理念にもどり、人間性の回復をめざし、新入生オリエンテーション・キャンプ、洋上大学など十周年行事を企画・実行することになった。

第一回目のキャンプでは、「ディスカバー・ヒューマニティ」をめざし、肌と肌の触れあいの中にコミュニケーションを求めて行つた。第二回以降は次のとおりである。

Table with 4 columns: 回数 (No.), 期間 (Period), 参加者 (Participants), 備考 (Remarks). It lists details for various orientation camps from 1953 to 1994.

Table with 4 columns: 回数 (No.), 期間 (Period), 参加者 (Participants), 備考 (Remarks). It lists details for various orientation camps from 1953 to 1994, including specific participant counts and activities.